

第 2 回伊賀市高齢者施策運営委員会

事務局	<p>失礼します。定刻になりましたので、ただいまから、令和元年度第2回伊賀市高齢者施策運営委員会を開催します。</p> <p>課長 藤林がヒヤリングのため遅れております。それまで進行させていただきます介護高齢福祉課の東構と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>改めまして新年あけましておめでとうございます。大分経過しておりますけれども、本日もお集まりの皆様には大変お忙しい中お世話になります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。本日はこの後、伊賀市地域密着型サービス運営委員会の開催も予定されております。委員の皆様におかれましてはご多忙の中、また、夕刻という会議にも関わりませず、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。始めに山路委員長からご挨拶をいただきたいと思います。</p>
委員長	<p>改めまして皆様本年もどうぞよろしくお願いい致します。</p> <p>皆様、ぜひ円滑な運営にご協力をよろしくお願います。</p> <p>本日は年明けになりましたが事前に事務局から資料の送付をいただいております、伊賀市高齢者輝きプラン第6次高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画策定のための日常生活圏域ニーズ調査の調査項目について事務局の方から提案がございます。委員の皆様にはご意見を頂戴したいと思いますのでどうぞよろしくお願いい致します。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。議事に入ります前に確認事項を申し上げます。</p> <p>まず本日の委員会でございますが、委員総数 15 人中、出席者 11 名、欠席者4名であり、半数以上の出席がありますことから、伊賀市高齢者施策運営委員会条例第6条第2号の規定(半数以上の出席により、会議が成立していることをご報告申し上げます。伊賀市医師会代表 猪木様、伊賀歯科医師会代表 村田様、伊賀薬剤師会代表 田中様、三重県介護支援専門員協会伊賀支部代表 峠様の欠席連絡がありましたのでお知らせさせていただきます。</p> <p>連絡事項2点目です。本委員会の会議は、伊賀市情報公開条例第 35 条及び住民自治基本条例第6条により公開の会議とさせていただきます。また、審議会等会議の公開に関する要綱第8条に基づく会議録作成のため、音声録音を行わせていただくとともに、同要綱第9条第2項及び第3項により作成した会議録を市ホームページに掲載させていただきます。</p> <p>3点目ですが、本会議は公開の会議であることから、傍聴者と報道関係者の入室を認めさせていただきます。本日該当者はおりません。</p> <p>4点目に、円滑な会議運営のため、発言の際は挙手していただき、委員長の発言許可の後にお願います。また事務局員がお届けしますマイクの使用によりご発言いただきますようご協力をお願いいたします。</p> <p>5点目に昨年 12 月に一般競争入札にて伊賀市高齢者輝きプラン計画策定の業務委託業者が決定いたしましたので、ご紹介させていただきます。本日事務局側に同席されております。Next-i 株式会社の横尾さんです。横尾さん、ご挨拶をお願いします。</p>
業者	<p>今、ご紹介に与りました Next-i の横尾と申します。よろしくお願いい致します。</p> <p>アンケートを含め、来年度の計画策定まで弊社私、横尾が担当させていただきますので、何卒よろしく</p>

	<p>お願い申し上げます。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>最後に資料の確認をさせていただきます。</p> <p>郵送させていただいておりますが、アンケート内容自体は変わっていませんが、全ての漢字にルビを振らせていただいた都合で中身は変わっていないのですが、資料を本日「第2回伊賀市高齢者施策運営委員会事項書」それから委員様の名簿、資料1として「伊賀市高齢者輝くプラン策定方針について」、資料2として郵送させていただいております資料に変わりまして中身は変わっていないのですが、ルビを振った都合上「伊賀市日常予防生活圏域ニーズ調査」が資料2。それから在宅介護の実態調査をしております都合の資料が参考資料としてつけさせていただいております。以上ですけれどもお手元に資料が無い方はいらっしゃいませんか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>それでは議事に入らせていただきます。</p> <p>以降の議事進行を山路委員長にお願い致します。それでは委員長、委員会の進行をよろしくお願い致します。</p>
委員長	<p>それでは、議事に入らせていただきます。</p> <p>本日はこの後、地域密着型サービス運営委員会も開催されますので委員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは計画策定の諮問について、当委員会に対して、岡本市長から伊賀市輝きプラン第6次高齢者福祉計画・第8期伊賀市介護保険事業計画に関して諮問されていますので、田中健康福祉部長よろしくお願い致します。</p>
健康福祉部長	<p>健康福祉部長の田中でございます。諮問させていただきます。</p> <p>伊賀市高齢者施策運営委員会様、伊賀市高齢者輝きプラン第6次高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画の策定について、委員会の意見を求めます。</p> <p>今後アンケートの調査、結果分析等を持ちまして、委員の皆様のご意見を頂戴しまして計画を策定していきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。</p>
委員長	<p>ただいま市長から計画に対する諮問をいただきました。</p> <p>続きまして、「計画の策定方針について」お手元に資料が配布されていると思いますので、事務局からご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>介護高齢福祉課の東構と申します。よろしくお願い致します。</p> <p>本日は、資料1「伊賀市高齢者輝きプラン策定方針について」という資料をご覧ください。</p> <p>1番目、伊賀市高齢者輝きプランについて。</p> <p>現在、我が国は急速に進行する少子高齢化・人口減少社会という大きな課題を抱えております。伊賀市においても、高齢者は32.5%、これは2019年11月末現在ですが、今後も1人暮らしや高齢者のみの世帯、認知症高齢者の更なる増加が予想されております。</p> <p>これまでの伊賀市のまちづくりを担っていただき、高齢者となられた皆さんの自立した日常生活を支援することはもとより、医療、介護が必要な状態となっても、住み慣れた地域で尊厳の保たれた生活が維持できるよう、住まい・医療・介護・介護予防・生活支援が一体的に提供される地域福祉計画を策定し、他の障がい者福祉計画や伊賀市国民健康保険保健事業実施計画等との整合性や互換・連携を行いながら、取り組みをスタートさせています。</p>

2000年から制度が開始された介護保険制度については、3年ごとに見直しについての議論を行っており、こういった国の動向を踏まえ、伊賀市として地域資源の活用や介護分野をはじめとした人材の確保をはじめとする持続可能な介護・福祉施策、医療の制度も含めて、どのような目標を設定し、どのような計画にしていけるのか、また、介護予防の事業や地域包括支援センターの在り方の議論も含めて、「高齢者が生きがいを感じながら安心して暮らす事ができる」「高齢者が住み慣れた地域でその有する能力に応じて自立した日常生活が営める」伊賀市にするための計画を、策定していきたいと思っております。

2. 策定方針として、基本理念や基本目標といった施策の体系については、第5次・第7期の取り組みを踏襲しつつ、厚労省が示す第6次・第8期の計画に沿って、在宅介護実態調査や日常生活圏域ニーズ調査等に基づき、情報整理と分析を行い、三重県が策定する高齢者福祉計画や、介護保険事業支援計画、また伊賀市における、伊賀市総合計画や地域福祉計画、障がい者福祉計画等の関連計画との整合性を図りながら、新しい計画期間の事業取り組みと目標設定(指標)について、スクラップ&ビルド、見直しを行います。

3番目施策の体系です。これは前回の資料に入っていた項目の5になります。

- (1) 住み慣れた地域で暮らし続けるために「地域共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムの深化・推進と生活支援の充実」
 - (2) いきいきと活動するためにということで「介護予防と生きがいづくり・社会参加の促進」
 - (3) 認知症の人を地域で支え合うためにということで「認知症施策の推進」
 - (4) 介護が必要となっても安心して暮らすためにということで「介護保険事業の充実」
- という風に体系づけさせていただいております。

4番目計画期間です。第6次・第8期の計画期間は、国が示す介護事業の見直し議論に合わせ 2021年、令和3年になりますが、4月1日から 2023年、令和5年3月31日までの3年間を想定しております。

計画スケジュールにつきましては、3、4ページの通りですが、3ページは前回お示しさせていただいております。4ページをご覧ください。第6次伊賀市高齢者福祉計画の策定スケジュールとして区分の4番目「伊賀市高齢者施策推進委員会」これが当会になります。10月10日に第1回がありまして、本日1月14日が第2回と。本年度はこれで終わります。2020年度4月から始まっておりますが、6月に第1回目、第2回目に中間案答申判定をまとめてまいりたい。第3回には最終答申として11月くらいに出せればと思っているのですが、これはあくまでも予定でありまして、国の保険料算定が長引いてくると後ろの方に若干ずれてくる可能性も考えられます。あるいは、もう一回委員会を急遽お願いする形も考えて行かなければならないかと思っておりますが、大体こういったスケジュールで計画を策定していけたらと思っておりますので、よろしく申し上げます。

2ページに戻ります。6番目計画策定の体制でございます。

市長からの諮問を本日受けました。第5次・第7期における年度ごとの自己評価による取り組み成果と次年度計画を踏襲しながら、計画に記載される事業施策ごとの指標や数値について、庁内推進委員会議を経た後、伊賀市高齢者施策推進委員会、当会でご意見を伺う取り組みと並行して、次期の計画策定に向けて取り組みんでまいりたいと考えております。中間答申で、議員全員協議会の後、パブリックコメントを募集し、計画を策定してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

	<p>7 番目で、ニーズの把握です。</p> <p>国が示す、実態調査内容に沿うように「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」と「在宅介護実態調査」により、ニーズを把握いたします。前回計画策定時に行った調査と同程度の規模と考えております。</p> <p>本日もご議論いただく調査ですが、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」</p> <p>対象者は伊賀市在住の 65 歳以上の要介護認定のない人及び要支援1・2の人から無作為に抽出。調査方法としては郵送による配布と回収と考えております。</p> <p>期間としては令和 2 年 1 月 30 日から令和 2 年2月 17 日くらいの予定で考えております。配布数は 5,000 通の予定です。</p> <p>「在宅介護実態調査」におきましては、11 月 21 日から取り組みんでいるのですが、対象者といたしましては、伊賀市在住の 65 歳以上の要支援・要介護認定者のうち居宅で暮らしている人から無作為抽出としております。大体計画の予定日は3月 31 日まで、配布数は 600 件と考えております。</p> <p>「在宅介護実態調査」につきましては、参考資料という形でお手元にお配りさせていただきます。これは国から出た調査と同じ中身で、手法としては認定調査員が認定更新のタイミングで勧奨通知と一緒にこちらのアンケートを郵送させていただいて、調査員が回収して帰って来るというスタイルを基本的に考えております。</p> <p>実質、3月 31 日くらいまでかかるかと思うのですが、600 件が届き次第、この調査を終了して調査分析にかけていこうと思っております。</p> <p>2ページの計画期間の「2023 年の令和5年」が間違っておりまして、「2024 年の令和 6 年の3月 31 日の3年間」になります。申し訳ございません。訂正をよろしくお願い致します。</p> <p>資料3等につきましては、先ほどスケジュールの所でご説明させていただきましたので、省略させていただきます。策定方針については以上になります。</p>
<p>委員長</p>	<p>ただいま事務局から説明がありました。計画の柱となる方針・大枠の部分は市の現行計画を踏襲しながら国や現状の分析結果を踏まえ伊賀市独自の高齢者福祉施策の取り組みに盛り込んでいくことと理解していますが、委員の皆様ご意見等ございますでしょうか。</p> <p>調査の経過を教えてくださいなのですが、どれくらい順調に進んでいるのかということと、介護の幅が広いような気がするのですが、介護度の割合はどんな感じでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>在宅介護実態調査はおっしゃる通り幅が広いのですが、介護度が高くなるにつれて施設入所されている方が多くなってきます。施設入所されている方に関しては今回調査対象外ということで、在宅介護を行っている方を中心とさせていただいております。伊賀市におきましては実際、要介護3以上の方が特養といった施設に入れると、まあ老健についても同じ施設です。そういった形で在宅、あるいはグループホーム等、例えばケアマネが施設ケアまでされてケアプランを作ってくれて請求等されている場合は在宅と違って施設入所という形で考えております。先週集計をとりまして 170 数件回収されているのが現状です。また勧奨通知をさせていただきながら2月、3月かけて 600 集まるかどうか、足りなかったら年度をまたいでも 600 にして調査分析にかけていきたいと考えております。一応それくらい回収できているはずで。</p>
<p>委員長</p>	<p>他、皆様からよろしかったでしょうか。特になければ引き続き次の事項に入らせていただきます。伊賀市高齢者輝きプラン策定のための意識調査(アンケート)について、こちらは事前に配布していただいていたということですが、ルビを振って多少ページが増えたということですので、本日のお手元の新しい</p>

	資料を参照にご説明の方をお願いします。
事務局	<p>前田と申します。</p> <p>資料②「日常生活圏域ニーズ調査」をお開きください。</p> <p>国の示すアンケート内容と、伊賀市独自のアンケート内容について説明をさせていただきます。</p> <p>まずこのニーズ調査ですが、13 項目ございまして、それに対する問いが 83 問あります。83 問のうち、60 問が国から指定されたもので、残りの 23 問が伊賀市が独自に作ったものです。前回の調査、平成 28 年度になりますが、この時のニーズ結果と比較するために、調査内容につきましてはほとんど変更しておりません。しかし、今回のニーズ調査で国から新たに追加された問いが2つ、それを受けて市が独自に追加した問いが6つあります。それぞれの項目を簡単に説明させていただき、新しく追加された問いを中心にもう少し詳しく説明させていただきたいと思えます。</p> <p>それでは、資料②の1ページをご覧ください。</p> <p>「あなたのご家族や生活状況についてお伺いします」ここでは基本となる事項を問う設問となっています。これは国からの指定項目です。</p> <p>続きまして3ページの項目2「からだを動かすことについてお伺いします」は、運動機能低下、転倒リスク、閉じこもり傾向を問うものになっています。これも国の指定でございます。</p> <p>続きまして5ページ項目3「食べることについてお伺いします」では、口腔機能の低下、低栄養の傾向を問うものです。これも国の指定になっています。</p> <p>続きまして6ページ項目4「毎日の生活についてお伺いします」は、認知機能の低下、頭を使って判断することが求められる動作の低下について問うものです。これも国の指定になっています。</p> <p>続きまして8ページ項目5「地域での活動についてお伺いします」は、ボランティアへの参加状況や、今後の参加の意向を問うものです。これも国の指定になっています。</p> <p>続きまして9ページ項目6「あなたとまわりの人のたすけあいについてお伺いします」では、うつ傾向を問うもので、これも国の指定になっています。</p> <p>続きまして 12 ページ項目7「健康についてお伺いします」は、社会的役割、社会参加の状況を問うもので、これも国の指定になっています。</p> <p>13 ページ項目8「介護予防についてお伺いします」は、市の独自の設問になっており、介護予防の取り組みについて尋ねています。</p> <p>14 ページ項目9「高齢者の生活を支援するサービスについてお伺いします」のところも、市独自の項目です。現在市が取り組んでいる事業について、その必要度を尋ねています。</p> <p>15 ページ項目 10「介護保険制度についてお伺いします」のところも、市独自の項目で、現在の介護保険制度についてどのように感じておられるかを尋ねています。</p> <p>続きまして 16 ページ項目 11「認知症にかかる相談窓口についてお伺いします」という所ですが、これは国が新たに設け、問い 74 と問い 75 を新規に追加しています。これに関係して市が独自に問い 76 から問い 80 までを追加しました。この項目が追加された背景として、近年ますます認知症が身近なものとなっており 2025 年には 65 歳以上の 5 人に1人が認知症と見込まれていて国が対策を打ち出しているということがあります。認知症は早期発見、早期対応が必要なことから、伊賀市における相談窓口の認知度、それに付随して国が推進している成年後見制度とその相談窓口の認知度を尋ねるものとなりました。</p>

	<p>最後の項目 13「今後の高齢者施策についてお伺いします」は、市の独自の設問となっており今後の施策で市民の方が望むものは何ですかということを探っています。</p> <p>一つ飛んでしまったのですが、18 ページ項目 12「認知症の方や家族への支援などについて」という項目も市独自のものになります。こちらは認知症の方やそのご家族についての支援で市が行っていることに対する認知度と、認知症に対して市民の方がどういった認識をお持ちか、また、その認識が3年前の調査と比較し、どのように変化したかを知るための設問となっています。</p> <p>もう1点、市が独自に追加した事項が6ページ問い 24 です。</p> <p>「食べることについてお伺いします」という国からの項目に「かかりつけの歯科医はいますか」という問いを市独自のものとして追加しました。咀嚼機能や嚥下機能が低下することによって、低栄養が、今問題になっています。歯が痛くなってから受診するのではなく、日頃から検診する習慣が大切だと考えておりますので、かかりつけの歯科医はいるのかということをお伺いすることを市民の方に問うということを追加しました。説明については以上です。</p>
委員長	ありがとうございます。それではただいまのご説明について、ご意見ご質問はございませんでしょうか。
副委員長	<p>たくさん質問項目で回答していただくのも大変だろうと思いつつ、少し内容について提案させていただきたいと思います。</p> <p>2018 年3月に介護予防につながる社会参加活動等事例分析と一般介護予防事業へつなげるための実践的手法に関する調査研究事業を出されています。出したのは、東京都健康長寿医療センター。200 ページ程の資料なのですが、その中の 15 ページの所に「社会参加プログラムを用いた介入研究」という内容がありましてそれを読みます。世界各国で介護予防に関してエビデンスのあるものを抽出したのがこの調査報告書なんです。その中で例えば、中国で行われた研究では、「住民自身で議題を考え、議論を行うプログラムを週3回 10 カ月を行った結果、脳容量の増加及び認知機能が改善したことを報告している。他方、ウォーキング群(週3回 10 カ月間)ではこのような結果は確認されなかったことから、社会参加プログラムが脳容量及び認知機能に与える影響が有酸素運動以上に大きい可能性を示唆している。」これ以外にも社会関係を取り結ぶことが介護予防につながるという研究報告が多く出されています。そういう意味ではニーズ調査の中で何らかの形で社会参加の頻度、社会参加していますかという項目はあるんです。8ページの所ではそれぞれ具体的な場面をあげて頻度を聞いているのですが、「人と会っているか」という問いがあったのですが、その頻度も尋ねれば、今の言ったことになげられるのではないかなと思いました。一度ご検討いただけたらと思います。以上です。</p>
委員	<p>老人クラブの松本です。教えていただきたいのは2点ございます。</p> <p>昨年 10 月 29 日の読売新聞に、「フレイル健康診断」が出たのですが、こういうことをしていますかという質問を入れたらどうかと思います。</p> <p>もう1点、これも読売新聞ですけど、12月12日に8050問題というのが記載されていたと思うんですけど、これも取り組んでいく必要があるのではないかと。簡単に読んでみますと、「80 歳代の親と引きこもりの 50 歳代の子どもが地域や社会から孤立することを指すと。家計を支えてきた親が病気で要介護になると、無職のまま中高年になった子どもとともに生活苦に陥る恐れがある」ということで、大きく記事が載っておりましたので、今日実際これについて教えていただきたいと思いました。それともう1件、前に申し上げた「フレイル健診」については 75 歳以上衰えチェックということで新聞に書いてありましたが、これもどうかと。これは 2014 年に日本老年医学学会が提唱しまして、これを導入すると記載されて</p>

	いて、15 までの健診で使う質問表というのが出たということです。いつ頃対応してくれるのか委員さんの方で検討していただけたらどうかと思ひまして、今日質問させていただきました。以上です。
委員長	ご質問に対して、市の取り組み等もしあればご回答いただいてもよろしいでしょうか。
地域包括支援センター	地域包括支援センターの横尾と申します。 まず「フレイル健診」ですが、令和2年度から開始の予定となっておりますので、今見ていただいている10 項目の質問も開始をされる予定となっておりますが、それについて実際に当事者の方達がどこまでご存知かというとなかなかアンテナの高い人しか知らないかと思ひますので、実際に始まるのは来年度になりますので、質問項目に入れるのかどうかはご検討していただけたら良いかと思ひます。それから8050 問題ですが、実際に地域包括支援センターの中で大変対応の困難な支援の難しいケースという中には 8050 のご家庭が大変多いというのが実情でございまして、それにつきましてはその中で虐待の発生であるとか生活困窮の問題が多発しておりまして、これについては大変問題となっております。ただ、「8050 問題を知っていますか」というのを質問項目に入れるのかというのは皆様にご検討いただけたらと思ひます。
委員長	委員の方のご意見をということでしたが、いかがでしょうか。 こういった調査は確かにこちらが知りたいことを把握するという意味もあるのですが、この調査票を見てもらうことで教育的な啓発的な意味も役割もあると思うんですね。そういう意味では 8050 とフレイル健診のことだけではなくて、例えば認知症のオレンジプラン等高齢者の介護予防の施策に関わるような色々な話題になっているような言葉をいくつかあげて、例えば、「知っている言葉に○をづけてください」というのをさせていただくと、そんなに答えていただくのに負担じゃないと思うので、もう少し細かくすると「言葉だけは聞いたことがある」とか「内容は知っている」とか段階的に聞くことも可能かと思うのですが、もしそれが難しいのであれば項目だけあげて、「知っている、聞いたことがある言葉に○をづけてください」というのを入らせていただくと、これから色々な施策を進めていくのに基本的にはポピュレーションの啓発になると思ひます。どれくらい高齢者の方々が自分達の今社会で起こっていることに関心を持ったり知識を持っているかという一般的な押し並べた内容ではあるんですけど、それがわかると施策としてポピュレーションとしてどの辺りをやっていかなければいけないのか、皆が知っているのであればポピュレーションではなくハイリスクという形で特定の方を選択してその人たちを集めて何かをすれば良いというような政策の大きな方向性っていうのが、幾つかの言葉を上げる中で見えてくるのではないかと思うので、そういう意味ではこの2つの言葉に限らず高齢者のトレンドになっているような言葉を幾つか上げていただくのもいいのではないかと思ひます。
副委員長	今、委員長におっしゃっていただいたようにその言葉について関心を向けていただくというのが大事で、これは何だろう、調べてみようかなというきっかけになっていただくともよろしいでしょうし、我が事として考えていただくという意味合いでも関心を持っていただくことは大事かと思ひます。特に 8050 問題というのは伊賀市内でも結構色々問題があつて様々な分野の窓口、機関で対応していないという所です。
委員	委員長、副委員長がおっしゃったように、老人会でも「フレイル」といったら、「8050」の話をした時に、「8020」と違ひますかねという人もいましたね。1 人でも知らない人がいたら喋つて知ってくれたら話してよかつたなと考えておりますので、委員長さん、副委員長さんがおっしゃったことに私は賛成ですね。
委員長	他にもこんな言葉もぜひというのもあれば(教えてください)。 それこそ今「8020」という言葉もあつたのですが、「8020」を知っていることの方が先じゃないかとも思ひ

	<p>ので、「包括支援センターをご存知ですか」とかそういう一般的なことでいいと思うんですけど、「認知症」という言葉も「痴呆」だったら知っているという方もみえると思うので、これから啓発していきたい内容の言葉を幾つか入れていただいても良いのではないかと思います。</p> <p>委員の方の中にもぜひこれという言葉があれば言っていただいて、もし帰ってからこれという言葉があれば後で事務局の方にご連絡いただいても良いと思います。</p>
委員	<p>老健おかなみの岩本と申します。今までの論点とははずれるかもしれませんが、5,000 通のアンケートを配布して、伊賀市もかなり広いので地域性等色んな分野の中で色んなコメントがあるのかというのと、果たしてこれだけのボリュームのものが適正にアンケートとして答えられる内容になっているのか。きちんと回答していただければそこから見えるものが多岐に亘って、8050 のことも受けいらざる言葉かもしれませんが、これをいかに 1 月 30 日から2月 17 日までの間に1人でも数多くアンケート調査をきちんと最後までできるように何かちょっと手立てがあった方がいいのかなと。これだけのボリュームのあるアンケートなので実のあるものになっていければと思います。</p>
事務局	<p>事務局の方から内訳を説明させていただきますか</p>
事務局	<p>介護高齢福祉課 東と申します。私からは、ニーズ調査の内訳についてご説明させていただきます。市内に9つの日常生活圏域がございます、それぞれの人数・人口がまちまちでございます。そこで市内在住の 65 歳以上方でそれぞれ日常圏域別で人口割合を打ち出しました。その中で男女比、前期高齢者、後期高齢者の内訳をそれぞれはじき出しまして、それに見合った割合数を 5,000 で割って、それぞれの男女比、圏比率、年齢構成に応じて、5,000 人を選ばせていただきました。周知につきましては、今後文字放送等でPRできたらと思うのですが、調査していただく方が限定されていますので、市内全域にPRするのに限定された方にお知らせするのは広報上あまりよろしくないと感じていただいたことがありますので、何かしら調査を上手く回収できる方法を考えていきたいと思っております。以上でございます。</p>
副委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>例えば、老人クラブさんもちろんそうですし、私共は地域福祉コーディネーターもやっています。何らかの関わりのある人達からこんな調査がきたら協力してあげてねと伝えていくことで回収率も上げられるのかなと思っております。</p>
委員長	<p>高齢者の方にダイレクトメールがいっぱい届くのでどれがどれかわからないというのがあるので、封筒の色を目立つようなピンク色とかわかりやすい工夫をしていただくと、例えば関係者の方にご説明していただく時にもピンク色の封筒が市役所から来たということかという感じになるのかなと。</p> <p>予算の関係とかもあると思いますが、高齢者の方にPRしていただくにしてもPRしやすい工夫をしていただくと大変助かると思います。</p> <p>伊賀市で色んな調査をやった時の回収率の良い方法はどんな感じでしょうか。遊びに来ると出さないわけにはいかないというのが一般的ですね。高齢者の方が義理堅いので。無作為なのでそこら辺がね。</p>
事務局	<p>高齢者の方の回収率は高いかと思えます。特に在宅介護実態調査はその数が集まるまでさせていただきますのでそこはほぼ目標に達すると思えます。</p> <p>暫定時のニーズの把握という所の下段に前回の調査とほぼ同程度と思っておりますので、例えば 5,000 配布して、返信用封筒に入れて調査票が返ってきたというのが、3,406 通あった。それは 68.1%ということで、ある程度の期間を設けてはありますが、ちょっと遅れても有効であったら拾いつつ、ある一定</p>

	<p>の事務手続き上の締め切りの期限とかあると思うのですが、封筒の色もあさぎ色かピンク色のような色で角2の封筒で調査票を送らせてもらって、返信は長3封筒に折りたたんで3つ折りにしていただいて送り返していただいて、「切手を貼らずにお出しください」と入れさせていただく予定です。</p> <p>あと、項目について今、ご意見いただきました。調査項目につきましては基本的に国の「見える化」といって、高齢者の方でこういう地域でこういう部分を見たいと見えるような調査を国に準じた形で調査しておく、それが必要な時に見られるということになりますので、それは基本的に抑えた上で、伊賀市のオプションとして今おっしゃっていただいた「成年後見」についても「認知症」についてもいわゆる啓発的な意味合いも持ちながら意識づけの効果も期待しながらオプションとさせていただいているということもありますので、ぜひまた今回いただいた部分というのは、何かしら知っていますかという興味を持ってもらうという項目として入れていけたらと思います。発送まで私共と委託業者さんの方で頑張らせていただけたらと思いますのでよろしくをお願いします。</p>
委員	<p>老人会の松本です。</p> <p>これはいわゆる調査する方の項目です。される側は半分ぐらいの方が1週間くらいかかると思います。まだあるのかと。</p> <p>これだけ調査するのがベストだと思うのですが、項目を減らすというのも実のある回答が出るのではないかと思います。</p>
委員長	<p>国からの多分比較というか聞かなければいけない項目もあると思うので、むやみにこちらの希望だけで減らせないという所もあるのかなと思うのですが、今回読みやすいようにということでルビをうっていただいたということで、少しページ数が多くなっているということで、ページ数を見ただけでもえーつと感じの所ももしかしたらあるのかなと思うので、一見、見た時に少ないなと感じさせるようなレイアウトの工夫とか業者さんにも実際には変わっていないけど見た目は少なく見えるなど工夫していただくのは可能じゃないかなと思います。</p>
本委員	<p>答えていくと大体どれくらいの時間になるんですかね。</p> <p>回答するのに 30 分かるとか1時間かるとか、普通に答えていって平均的な時間はどれくらいなのでしょう。30 分でできますよとか1時間かかりますよとかあらかじめ盛り込んでおいた方が、ボリュームが多いので。</p>
委員	<p>アンケートを記入する側からしたら「まだあるの、まだあるの」という声をよく耳にします。</p>
事務局	<p>国が聞いている項目については、網羅させていただいて、それは逆に聞かないとまずいかと思います。</p> <p>あとどうするかという伊賀市がオプションづけている所についてご検討いただくことになるかと思いますが、前回項目という比較ができるので少なくしていないというのが現実です。毎回毎回、こういった項目を聞いた方がいいかなというご意見をいただいて付け足していくと項目が増えていっているのも事実です。実際、30 代、40 代の者が普通にゆっくり回答して1時間。高齢者の方で1時間半くらい。今おっしゃっていただいた通り「まだあるの」という印象を拭えないのも事実です。</p>
委員長	<p>書式とかも統一なんですか。</p>
事務局	<p>いえ、書式は統一されていません。</p> <p>国のだったらもっと簡素になると思います。○だけづけていくイメージになると思います。</p> <p>書体も国が言っているのはゴシックですが、伊賀市はユニバーサルフォントを使っています。</p> <p>実際、こんなにルビを振らないといけないのかとおっしゃっていただくのもわかるのですが、外国の方も伊</p>

	<p>賀市にはいらっしやいまして、一応書いた日本語だったら理解して書いていただける。あるいは個別対応というのも考えておりますので、ルビを減らしたら枚数も減ってとつきやすいというイメージもあるのですが、難しいかなということで今ご提案させていただいた形になっております。</p>
委員	<p>高齢者とは違うのですが、伊賀市で前に障がい者の方のアンケートをとられたと思うんです。私は生活支援をしているもので、その人が「どうしたらいいのこれは」と言われて、でもずっとづきっぱなしでこれはこうだからと全部説明しながら回答してもらったことがあるんです。やっぱり途中から根を上げられて、まだ？まだ？と言われながら一緒に回答していった覚えがあります。50くらいの方で、そんなにひどい障がいがあるわけではないですし、普通に生活されている方なんですけど、これほど多くはなかったと思うんですよね。その時にすごく言われたのは、これを見ながら思いだしていたのですが、多いなっていうのは。</p> <p>だから、その辺はちょっと気になりますね。</p>
委員長	<p>削れるところは削っていただいて、後は表記の仕方はい、いいえの所はもうちょっとまとめてはい、いいえを続けていただけたらなと思います。</p> <p>ただ色んな調査をする中で書式が違うだけで、回答率や回答の選択肢が違ってくのが実際なので、比較しようと思うとできるだけ前回に近い方が比較にはなると思うんです。だんだん長くなってくと面倒になってきて人間の心理的に。とりあえず「はい」にしておくとか「どちらでもない」にしておくとかいう感じになってくるのが一般的な心理なので、そういう様式にも回答率に影響を及ぼすというのは調査の形式を考えて行く時の基準になるので、難しい所かなとは思いますが、私、今見ている、前書きの辺りなんかもう少しコンパクトにできるのかなと思って。例えば回答についても選択肢に○をするなど書いてもらっているのですが、説明の所でもう少し端折れるところはないのかなとか、ご本人がお答えくださいの所に難しければご家族がサポートお願いしますみたいな前がコンパクトになるだけでも印象が違うかなと思うんですけど。</p> <p>また事務局の方でも少しご検討いただいて、実際に高齢者の方にご家族とかでお試しいたご意見いただいてもいいのかなと思います。基本的にはアンケートをする時にプレテストというのを事前にするので、実際にどれくらい時間がかかるのかとか、答えやすいのかなどそんなにたくさんじゃなくてもいいと思うのですが、10人くらいの方にしていただいて今回年齢がかなり幅広いので60代や70代の人に来ていただいてここは答えにくいとかいうのを参考にされてもいいのかなと思っております。</p>
健康福祉部長	<p>すみません。事務局ですけれど、色々ご意見をいただきまして本当にありがとうございます。その通りだなと思いつながら聞かせていただいていたのですが、国でこういうことを聞きなさいと示されている項目が大半でございます。</p> <p>それについてはお伺いしなければいけないかなと思います。</p> <p>それと市で独自に聞かせていただいている項目というの10数項目ございますもので、前回との比較というのものもあるのですが、できる限り少なくさせていただこうかなと思っております。</p> <p>発送させていただいて、回収して分析調査ということで、今月下旬くらいには対象の皆様へ発送させていただきたいと考えておまして、今申し上げました国から示されている項目というのはどうしても削ることはできない、これはご了承いただきたいと思ひますし、市独自の部分を可能な限り、今ご覧いただいている設問の中から削除できるものは削除させていただこうと思っております。</p> <p>最終の事務局の方で考えさせていただいたものをですね。</p>

事務局	<p>介護高齢福祉課 藤林と申します。よろしくお願ひします。</p> <p>今ご意見いただいた中でできるだけ修正をさせていただくということで、その確認につきましては発送の日も近づいてきますので、もし皆様のご了解いただけるようでしたら、委員長さんにご確認いただきまして発送していけたらと思います。</p>
委員長	<p>私は個人的にちょっと不安があるので、副委員長さんと2人で確認させていただきたいと思うのですが、よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>老人会 松本です。今、ざっと調べたのですが、2択が29問、いくつでもというのが17問とたくさんあります。(選択肢が)10項目程ある12くらいもありました。すると12まで読まないといけない。それが17問。3択17問、4択10問。なんと8択も9問ほどありました。</p> <p>この中の問8を見ましたら、いくつでも結構です。19(選択肢)ありました。そうするとやっぱり時間がかかってきます。</p> <p>僕の意見ですが、国からの項目は省いても伊賀市独自の項目は入れてください。地域密着型でそちらの方が大事だと思います。以上です。</p>
委員長	<p>確かに地域の独自性は大事だと思うので気持ち的にはよくわかるので、あと工夫できるのはレイアウトとなるべく文字数を少なくする。選択肢を少なくするのは国の指定なので難しいと思うので、伊賀市独自の所でもし言葉を少なくすることができるのだったら、(調査票の)前の方の「上野支所管内」とかあるんですけど、お住まいの地域を教えてください、「上野」「伊賀」だけでもわかるからそれでもいいのかなと私は個人的には思っているのですが、そういう形で少し言葉を省ける所は省いて見た目を少しでも字が少なく見えるようにしていただくとかそういう工夫はしていただけるのではないかと思います。</p> <p>また後で、確認の方をさせていただきますが。</p>
事務局	<p>今日の内容を踏まえて、委員長、副委員長の最終決裁をもらってから郵送させていただくということよろしいでしょうか。</p>
	<p>一拍手一</p>
委員長	<p>では、色々ご意見をいただきありがとうございました。</p> <p>伊賀市高齢者輝きプラン第6次伊賀市高齢者福祉計画・第8期伊賀市介護保険事業計画については先ほど示されたスケジュールでほぼ進めていけるということで予定をしていただきたいと思います。</p> <p>先ほど、諮問がありましたように来年度認知症当委員会からも答申を出そうというスケジュールなので、皆様には例年より委員会の開催回数が増えるということをご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願ひします。</p> <p>委員の皆様から活発なご意見をいただいた所でせつかくの機会ですので委員の皆様から何かございましたらご意見等よろしかったでしょうか。</p> <p>では、事務局の方から何かございましたらお願ひ致します。</p>
事務局	<p>事務局も大丈夫です。</p>
委員長	<p>それでは、これで第2回伊賀市高齢者施策運営委員会を終了します。</p> <p>ありがとうございました。この後、事務局で進行をお願ひします。</p>
事務局	<p>委員の皆様、今日はどうもありがとうございました。</p>

	<p>この後、引き続きまして地域密着型サービスの運営委員会を開催させていただきたいと思います。関係委員の皆様は引き続きよろしくお願ひ致します。</p> <p>ありがとうございました。</p>
委員	<p>ありがとうございました。</p>